



RIST TUS
Research Institute for Science & Technology

生物環境イノベーション 研究部門セミナー

好奇心駆動型の研究のススメ

～フィールドから分子までを貫く無脊椎動物研究～

演者：豊田 賢治 先生

金沢大学 環日本海域環境研究センター

日時：2023年12月11日（月）10:30～12:00

場所：講義棟 6F 604

私はせっかく研究者になれたのだから、自分が面白いと思える研究をやり続けてやると心に誓って活動している。動物プランクトンの代表選手とも言えるミジンコのオスとメスが決まる仕組みの研究で博士号を取得し、国内外で研究員を続けてミジンコ研究の面白さにドップリと浸かっていた。そして研究を進めるうちにミジンコと同じ甲殻類であるエビやカニなどは水産的重要性が高いにも関わらず国内の研究者がかなり少なく、面白い現象の数々が手付かずの状態で見捨てられていることを知り、ケガニやズワイガニ、イセエビ、クルマエビなどを用いた研究を開始した。我が家の食卓には決して並ぶことのないこれら高級食材を100匹単位でサンプリングして、精製したホルモンなどを生体に注射してその生理作用を調べたりする実験はあらゆる面で刺激的だ。また、佐渡島や能登半島にある臨海実験所で職を得たこの4年は、豊かなフィールドでの調査に魅了され、実験室でピペットマンを握っていた生活から野外で生き物調査に勤しむ生活に変わった。現在はフィールド調査から野外の生物が示す生命現象を明らかにし、その現象の背景にある分子メカニズムを明らかにしていく研究スタイルを固めつつある。このセミナーでは能登半島や佐渡島、隠岐島といった日本海側の生物を対象にした最近の私の研究トピックを紹介したい。大潮（満月・新月）の夜に海岸に集まるカニ、寄生虫に乗り取られて去勢されて性転換される散々なカニ、ヤドカリとタコの攻防などなど、好奇心の赴くままに突き進める研究の面白さを感じてくれたら幸いである。

連絡先：先進工学部生命システム工学科・宮川信一
(内線 1910、email; miyagawa@rs.tus.ac.jp)